

令和4年度 学校評価報告書

学校番号(小02) 長崎市立(古賀小)学校

1 教育目標

未来に生きてはたらく「生きる力」を身につけようとする子どもの育成 ～底力のある、ともによりよく生きようとする古賀っ子の育成～

2 学校経営方針

やる木 (気) げん木 (気) こん木 (気)	○課題解決意識をもって学び合う子ども ○元気に挨拶をし、しっかり反応する子ども ○目標に向かって成しとげようとする子ども
-------------------------------	--

3 重点目標

心の教育の充実 学力向上をめざす チーム意識をもつ GIGAスクール構想 古賀っ子のくらし	○気持ちのよい挨拶と返事の習慣化 ○話し合い、議論ある授業（ペア学習、グループ学習含む）※練り合いの重視 ○共通理解事項の徹底 ○1日1回以上の授業でのパソコン利用を目指す 5つのめあてをがんばろう ○あははせだ運動
---	---

4 自己評価

領域	項 目	質 問 内 容	アンケート結果 (肯定的割合・%)			分析及び改善策
			児童 生徒	保護者	教職員	
学校経営	教 育 目 標	教育目標を達成している	93	94	91	○教育目標の達成については、とても高評価であった。「やる木、げん木、こん木」という3つの目指す姿を今後も教育活動全体の中で意識しながら取り組んでいく。 ○業務の改善については、校務分掌の均等配置による負担軽減等も考慮に入れながら、来年度も校務の見直しを図り、さらに業務改善に心掛けていく必要がある。
	学 校 の 雰 囲 気	明るく楽しい雰囲気である	91	96	76	
	組 織 運 営	校務分掌は責任体制が明確で、適切に機能している			78	
	業 務 の 改 善	校務の縮減・効率化等、業務の改善を推進している			78	
心の教育	生活・生徒指導	ルールやマナーを身に付けている	83	73	48	○ルールやマナーについては、評価が低い。特に教職員から見た児童の姿について、評価の低さがうかがえる。次年度に向けて、様々な場において児童に決まりについて考えさせる機会を設けていくことで改善につなげていく。○挨拶については、学校内だけではなく、保護者や地域の方等周りの大人の方へも、自らすすんで行えるように取り組ませていく。今後も、大きな声ではっきりとすすんで挨拶できるように挨拶の質の向上に力を入れていかなければならない。 ○「あ・は・は運動」については、本校の重点教育目標の一つである「あははせだ運動」とも直結するので、今後も徹底していくとともに、家庭でも常に意識して取り組むことを呼びかけていく。 ○いじめ防止対策については、日常から児童の様子に細心の注意を払いながら、早期発見・早期解決を心がけ全教職員で心の教育活動に取り組んでいく。
		挨拶をよくしている	84	71	41	
		「あ・は・は運動」を知っている(小学校のみ)	76	80	87	
		教職員は悩みや相談に親身に対応している	95	97	96	
	いじめ防止対策	学校はいじめ防止のための対策をとっている	97	87	100	
	人 権 教 育	生命や人権を尊重しようとする心が育っている	86	96	78	
	平 和 教 育	平和の大切さを感じ、その思いを発信しようとしている	95	97	95	
	特別支援教育	学校は教育的ニーズに応じた教育を行っている	90	87	91	
確かな学力	特 色 あ る 学 校 づ く り	伝統や校風、地域の実態に即した教育を行っている	82	98	96	○特色ある学校づくりについては、地域の方々の熱心な協力のおかげで、地域と密着した教育活動が実現できたと言える。今後も、学習のねらいを地域の方々と共有し、特色ある教育を継続していく。 ○家庭学習の習慣は、特に保護者の評価が低く、今後、家庭との協力のもと家庭学習の習慣の定着を図りたい。 ○キャリア教育については、日頃の先生方の指導の成果もあり、子どもたちは地域に愛着を十分抱いている。今後も地域に根ざした教育を継続していく。
	学 習 指 導 ・ 教 育 課 程	わかりやすい授業を行っている	97	96	96	
		家庭学習の習慣が身に付いている	72	63	96	
	キ ャ リ ア 教 育	将来の自立に向けて適切に指導している	87	87	83	
		長崎のまちや自分の住んでいる地域が好きである	93			

健やかな体	保 健 ・ 衛 生	衛生管理に努め、健康に関する教育を行っている	92	92	96	○保健・衛生については高い評価であった。コロナ禍における、手洗い、うがい、マスク着用、換気、黙食等が徹底され、教育活動を慎重に進めた成果である。 ○基本的な生活習慣について、家庭における評価が低い。今後、家庭との連携のもと生活リズムづくりの大切さについて保護者への啓発を続けていく。 ○体力向上については、教職員の評価が特に低い。体育の活動だけでなく、日常生活の中で、効果的な体力向上の方法を探り、実践していく必要がある。
	体 力 向 上	早寝・早起き・朝ごはん(基本的な生活習慣)が身に付いている	78	66	91	
		体力向上に努めている	79	85	57	
	食 育	食に関する教育活動を行っている	89	90	83	
信頼される学校	安 全 管 理	児童生徒の安全に気を配っている	93	87	100	○情報提供において、学校便りの定期的な発行を始め、学年便りや学級通信等の配布が高評価につながっていると思われる。今後は、教職員によるホームページの活用等の工夫も継続したい。 ○保護者と職員は、育友会や地域と連携が取れていることを実感し高い評価となっている。一方、児童は、未だに先が見通せないコロナ禍における行事の中止や参加できない場面の多さが低い評価へと繋がっていることが考えられる。
	情 報 提 供	学校の状況は通信やHP等で知ることができる	83	92	87	
	P T A ・ 地 域との連携	学校はPTAや地域との連携がとれている	62	96	91	
	職 員 資 質 向 上	研修が充実し、資質が向上している			91	
教育環境	環 境 整 備	教育環境が充実し、整備されている	91	87	87	○環境整備に関して、高評価が見られるのは、I C T 機器やその取組の充実が考えられる。 ○今後も、教育環境へのI C T 活用と業務へのデータ活用を導入し、働き方改革の推進を図っていく。
	職 場 環 境	学校は働きやすい職場づくりに積極的に取り組んでいる			83	

5 自己評価のまとめ(成果・課題・対策等)

○保護者から、「教育目標」「学校の雰囲気」「悩みや相談に対して親身に対応」「人権教育・平和教育」「特色ある学校づくり」「分かりやすい授業」について高評価を得られた。コロナ禍にあつて、制限があったものの、地域の方々の協力のおかげで、地域と密着した教育活動が少しずつでも実現できたことが高評価につながっていると言える。また、授業参観や行事の制限等がある中、できる範囲で学校の様子を公開し、さらに、教職員が通信やホームページ等を活用して学校の様子や目指す子どもの姿を発信し、学校の教育活動の意義を保護者や地域の方に伝える工夫をしてきた。その成果だと考える。

○課題は「生活・生徒指導」「家庭学習の習慣」「早寝・早起き・朝ご飯」である。どれも学校での指導だけでなく、家庭との連携が大切な事柄ばかりである。学校から発行する通信やホームページ等の活用で家庭に情報発信することにも力を入れつつ、必要に応じて、保護者と連絡を取る等対話の場面も設定し、改善を図っていく。

○「挨拶」については、児童の評価に比べ、保護者、職員の評価が低い。児童自身はやっているつもりであっても、周りの大人の人に伝わっていないことが考えられる。今後も、自ら進んで大きな声ではっきりと等、挨拶の質の向上にも力を入れていく。

6 学校関係者評価

○家庭に関係の深い早寝、早起き等の生活習慣や家庭学習などは、育友会としても改善に取り組んでいかないといけない課題だと感じる。早起き630等課題を絞って保護者啓発を進めていくことも大切だと思う。

○挨拶を良くしていくために、学校での指導はもちろん、地域の方でも気掛けて声掛けを行い指導していく。

○集団登校については、育友会主体で実施要綱も整理されており、課題も多いようではあるが、まとまって歩くということで安全面を保ち、上級生が下級生のお世話をするところからも意義深い活動であるので、継続実施を行う。

7 対策等の見直し(学校関係者評価を受けて)

○家庭に関係の深い生活習慣や家庭学習などは、学級懇談会の話題にしたり、保護者向け講話のテーマにするなど育友会と連携して保護者啓発を進めていく。

○挨拶を良くしていくために、学校での指導はもちろん、家庭や地域の方々の力も借りていく。

○働きやすい職場作りを目指して、行事の精選や日課の見直し等を始め、I C T の活用にも取り組みたい。

※「4 自己評価」の「項目」欄には、領域毎に空欄を設定している。ここには、重点目標に即し、学校独自の「評価項目」並びに「質問内容」を追加することができる。

<参考例> 読書活動、豊かな体験活動、部活動 等

※「4 自己評価」のアンケートは、4段階で回答するようになっているが、そのうち上位2段階を肯定的回答ととらえ、その割合(整数値のみ)を集計する。